

警戒種
(特定外来生物)

人や家畜に毒性を持つ危険雑草 -ナルトサワギク-

同定のカギ
・冬季にも黄
色いキク科
の花が満開



形態・特徴

アフリカ南東部原産のキク科の一年生または多年生。茎は直立、叢生し、多数分枝する。草丈は50-70cm程度で直径2.5cmほどの鮮黄色の頭状花をつける。葉の形状は極めて変異が多いとされる。通年的に散布される種子は白い冠毛をつけ、風散布される。最大の特徴は、一年を通して開花することである。真冬に黄色い頭状花が多数開花しているのを見つけたら、本種を疑う。

発生生態

市街地、河川敷、牧草地などあらゆる場所に発生する。秋と春にピークが見られるが、通年的に出芽する。生活史のサイクルは早いと1.5ヶ月。初秋の集団と越冬した大型個体は種子を多数つけるため埋土種子を増やす。晩春～夏は発芽後の死滅や老化により死滅個体が増える。耕起すると高密度での発生が促進される。栄養成長初期に刈り払いすると38.2%まで生存率が下がる。牧草、特にイタリアンライグラスの競合力が強く、ナルトサワギクの成長を抑制する。霜に弱いため、分布は福島県以西



雑草害

雑草性に係る特徴として最も重要なことは、人や家畜に対して肝毒性や発がん性を有するピロリジジナルカロイドを含んでいることである。人が間違っって直接食べることはないと思われるが、家畜の健康を害する危険性、さらに畜産物を介してアルカロイドが人に移行する危険性がある。放牧地にまん延し、そこで放牧されていた牛が全頭下血する事例もある。



防除のポイント

通年的に種子散布するため、他の植生を枯殺するとたちまちナルトサワギクを優占させてしまう。植生を維持しながらナルトサワギクのみを選択的に防除することが重要である。広葉雑草に選択的に効果がある2,4-Dやプロモキシニルがナルトサワギクの防除効果が高いとされるが、前者は放牧地などでの農業登録がない。後者は日本では全く登録がない。イタリアンライグラスなど競合力の強い牧草をしっかりと生育させる管理が重要である。



写真: 上から、「早春に満開の状態」、「実生」、「放牧地にまん延した様子」、「花」

ナルトサワギク

Ver. 1.

お問い合わせ
農研機構
植物防疫研究部門
雑草防除研究領域
029-838-8421 (広報)



Senecio madagascariensis

対策

警戒種

中毒事故を防止するために

ナルトサワギク



機械的防除

栄養成長初期の刈り払いは効果が高い

侵入初期の防除が重要

通年にわたって出芽、開花、結実を繰り返し、多年草となって、他の植生を抑圧する性質を持つので、一旦侵入すると防除は極めて困難である。侵入初期段階で発見し、すぐに防除するなど初期対策が重要。



耕種的防除

競合力が強い牧草イタリアンライグラスの密度を高める

分布拡大防止

冠毛を持つ種子を通年にわたって散布し続けるので、急速に地域全体にまん延する。分布拡大を防止するため、地域全体での取り組みが不可欠である。



化学的防除

2,4-Dで選択的に防除し、イネ科牧草の植生を維持する。非選択性除草剤は牧草も枯らすので不可。

放牧草地での対策

放牧地で登録のある除草剤は効果がないため、一時的に牧区を区切って、効果のある選択性除草剤で牧草類を優占させ、ナルトサワギクを駆除した後、放牧地として再造成する必要がある。

除草剤情報

下記の情報は文献情報に基づくものです。その効果については検討が必要な場合があります。

※除草剤の使用にあたっては、ラベルをよく読み、よく理解した上で使用方法を遵守してください。

除草剤	薬量	処理方法・時期
ブロモキシニル	-	日本で登録なし
2,4-Dアミン塩	200-300g/10a	非農耕地の場合